

論文

子供のうたの変遷をみる

(明治時代)

鎌田 弘子

はじめに

私達のまわりにはたくさんの歌がある。マスコミの発達した現代では云うに及ばず、遠い昔から歌は我々の生活になくてはならないものであった。誰からともなくうたいがれて来た「わらべうた」、母にうたってもらったやさしい「子守唄」、幼稚園や小学校で先生から教えられた童謡の数々。それ等のなつかしい歌をうたう時、私達は何とも言えぬ郷愁にかられるのである。正に「うたは心のふるさと」である。明治以後昭和の現代に至るまでのうたについて、今回は特に音楽的な面でのアナリゼを試みる事によって、うたの移り変りを調べ今後のうたのあり方についての方向づけの一つの手がかりにしようと考えたのである。

さて、うたにはたくさんのジャンルがある。まず明治から大正へと歌を調べ始めるとこれは大変である。民謡、わらべうた、軍歌、はては外国の民謡等その時代の背景や要求によって多種多様なうたが発表されている。

昭和に入りラジオの普及にともない歌謡曲が生まれ、次々に新しいうたがもてはやされるようになった。流行歌の誕生である。いわんや現代に至っては言うに及ばず、私達のまわりのうたの数は全くかぞえ切れない程である。

勿論ジャンルは拡大され、民謡、歌謡曲、フォークソング、ニューミュージック、テレビ等のコマーシャルソングに至るまで、うたであふれている。

これ等すべてのジャンルにわたり時代別にアナリゼするには、あまりに

も広範囲すぎるため、今回は、特に子供のうたについて、研究をすすめる事にした。

子供のうたと云う限られた範囲にしばるという事は、必ずしもその時代の音楽的レベルや傾向を知る上に充分とは言えないが、他のジャンルの曲については次の機会にゆずるとして、幼児教育にたずさわる筆者としては、まず子供のうたに取り組む事にした。

アナリーゼの方法

○アナリーゼは、次の観点から行うこととする。

1. メロディ（音階 形式 詩とメロディの関係）
2. リズム
3. ハーモニー

時代に伴う音楽の流れについて

実際の曲のアナリーゼに取り組む前に、各々の時代の音楽の流れを理解する必要がある。

ある一つの曲について、いつ、どんな背景の中で生まれて来たか、そして当時どんな風に人々にうけ入れられて来たか等を調べる事によって一層はっきりと音楽の流れを知る事が出来る。

そのⅠ 明治時代

明治の初期というのは、日本の青年期とも云うべき若々しさを持っていた。江戸時代までは、実に閉鎖的な政策故に、音楽の分野においても殆んど新しいぶきは感じられなかった。明治以前にあったうたと云えば、わらべうたや民謡のたぐいしかなかった様である。

ヨーロッパに於て、音楽は中世（5世紀から15世紀）から、キリスト教に取り入れられるすべての芸術（絵画 文学 音楽）の中で最も高い芸術とされ、キリスト教を支える大きな役割を果たし、素晴らしい発展を見たのに対し

日本では、遊芸の一つとみなされ、非常に低い地位におかれてしまったため殆んど進歩発展は望めなかった。全く音楽的な面に於ては、ヨーロッパとは比較にならない程おくれを取ってしまった。

明治時代に入り、いよいよ文明開化、すべての点で欧化思想と国粹思想の対立するなかで、音楽は、欧化思想を大いに取り入れ、新しい音階、リズム、ハーモニーを一気に取り入れ次々に新しいうたを造り上げていった。

しかし、ここで反省しなければならない事は、あまりにも外国（特にヨーロッパ）の音楽を崇拝してしまったため、日本独自の音楽を俗楽とさげすみ片すみに排してしまった事である。

日本の音楽は音楽として、その良さを充分認め、外来のものと同時に発展させて行ったらば、音楽の方向づけは、かなり異っていたのではないかと思われる。

この傾向は、音楽に限らず、日本人の特性で今後共注意し反省すべき事ではないだろうか。

さて、年代を追って明治時代をもう少し詳しく調べてみることにする。

明治5年に、初めて学校制度が定められ、その中に「修身」「読本」「算術」などと共に「唱歌」という科目が設けられた。実際には、教育の重点は、「読み、書き、そろばん」で「唱歌」は遊芸の部類とさげすまれ殆んど行われなかった様である。

しかし明治12年、文部省に「音楽取調掛」という部署が設けられ、（これが現在の東京芸術大学）伊沢修二がこの責任者に任命されてから、音楽は著しく発展して行った。

伊沢修二は、アメリカに留学し、アメリカの音楽教育システムを研究して帰国後、アメリカでの師であったメーソン氏の来朝をこい、教材の編集や音楽教師の養成に当たった。

まず唱歌の歌詞は「徳性の涵養と情操の陶冶」に資するものとして、五倫五常風な教訓的なものないしは、和歌的な花鳥風月をうたった美的な内容のものとした。

音楽的には、「東西二洋の音楽を折衷して新曲をつくる」「将来国楽を興すべき人物を養成する」ことを理想にかかげた。

これ等の方針は真に立派であるが、私の感ずるところ、昔の修身の本を読むのと同じような内容で、本来の音楽の楽しさから少々かけ離れてしまった様に思う。しかしこの方針によって、格調の高い名曲が次々に生まれた事にはちがいない。

さて、日本の音楽家達は、こぞって外国に留学して、ヨーロッパの大成された音楽を学んで来た。滝廉太郎（作品として、「花」「荒城の月」等）や山田耕筰（「からたちの花」「この道」等）もその一人で、後に芸術的なすぐれた作品を数多く残している。

日本人作曲家が、新しい曲を次々に発表するのと同時に、先に述べた音楽取調掛編纂による「小学唱歌集」が作られていった。

その中には、メーソンが、アメリカの学校で用いている欧米の民謡から「庭の千草」「蛍の光」「蝶々」等が収められている。どの曲をみても今も尚私共の愛唱歌として残されているなつかしい歌である。

本来これらの外国曲は、民謡なのだから、誰にでも親しまれる、やさしい楽しい内容だったにちがいないのだが、それを先にかかげた理想に基づき、花鳥風月風ないかめしい文語体の詩に書き改められてしまったのである。

その一つの例として「夕空晴れて」という曲をとり上げてみよう。

日本では次の様な詩になっている事は誰でも御承知の通りである。

夕空晴れて 秋風吹き

月影落ちて 鈴虫鳴く

思えば遠し 故郷の空

あゝ我が父母いかにおわす

上の詩をみると、いかにも風景の描写と父母をおもう高德心にあふれている。

原曲では「麦畑」という題で親しまれている。誰かさんと誰かさんが麦畑でキスをするという内容で、楽しい愛のうたなのである。しかし当時の考え

方としては、麦畑でキスをする等とんでもないと言うわけで、「夕空晴れて」に改められたわけである。

幼児の歌として出されたのは、明治20年に発行された「幼稚園唱歌」がはじめてである。「進め進め」や「風車」等が収められている。いずれも文語体の歌詞なので、当時の子供達は、メロディは覚えるが、詞の意味は殆んどわからなかったにちがいない。そういう点に於ては、新しい曲がたくさん生まれては来たものの大衆に真から喜び親しまれるには遠い存在だった様になると思う。

その後次々に唱歌集が編纂された。

明治21年～23年 明治唱歌 1巻～6巻

(海外の名曲がたくさん収められている)

明治22年 中学唱歌集

(「殖生の宿」等が収められている)

明治24年 儀式用唱歌発表

(「君が代」「紀元節」等現在尚歌われている曲が多い)

明治25～26年 小学唱歌 1巻～6巻

(わらべうたや、新人作曲家の作品を収めている。「うさぎ」等)

明治27年～30年 大捷軍歌 1巻～7巻

日清間の関係がけわしくなるにつれて、唱歌はいよいよ修身あるいは、忠君愛国の精神を中心とするものが多くなった。軍歌の登上である「敵は幾万」「勇敢なる水兵」等、軍歌は昭和に入り第二次世界大戦勃発以後増々隆盛をきわめていった。

明治33～38年 幼年唱歌 1巻～10巻

(小学校1年～4年用)

少年唱歌 1巻～8巻

(高等小学校1年～4年用)

今までの文語体の歌に変わって、子供の歌は子供の言葉で書くべきだと考え言文一致、口語体で作ろうという運動がおこった。当然のこととはいえ、当

時としては一大変改であった。田村虎蔵や納所弁次郎が中心となってこの運動を進めた。「うさぎとかめ」「お月さま」「花さかじじい」等が発表された。

明治33年 尋常小学唱歌全 2 冊
 高等小学唱歌全 8 冊

歌詞が口語体になると、やさしく親しみやすくなったため、人々は非常に喜んだものと思われる。「大こくさま」「一寸法師」

ちょうどこの時期に、薄命の天才、滝廉太郎が素晴らしい歌曲「花」「箱根八里」「荒城の月」を発表した。

明治29～39年 新編教育唱歌集
 ♫ 40年 中等教育唱歌集
 ♫ ♫ 42年 女声唱歌
 ♫ 43年 教科統合中学唱歌（1 巻～3 巻）

日清戦争終了後、尚一層忠君愛国の思想が強まり教科書作成は国家ですべきだという意見が出て来た。当時の出来事として明治35年「教科書疑獄」という一大事件がおこり、それを期に唱歌の本も文部省編集になってしまった。この中では「港」「旅愁」「夏は来ぬ」「ローレライ」等、今尚私共が口ずさむ歌の数々が含まれている。

明治43年 尋常小学読本唱歌 全一冊

いよいよ文部省唱歌の時代となる。言文一致唱歌は前にも述べたように民衆に強い支持をうけ普及したにもかかわらず、一方では品位が落ちるという反対意見があり、再び国民思想統一のもとに、強い統制下におかれることになってしまった。これ等の教科書の特色は、一つ一つの歌が非常に慎重に作られたことである。一つの詞に対して必ず二人以上の作曲家が作曲し、委員会で討議した上で決定した。

従って著作権は文部省にあることとなり作詞家や作曲家の名前は今尚あきらかにされていない。唯文部省唱歌という名前と呼ばれるに至ったのである。

作品には、「こうま」「春が来た」「われは海の子」

明治44～大正 3 年尋常小学校唱歌 全 6 冊

「池の鯉」「牛若丸」「海」「浦島太郎」「かたつむり」

以上明治時代を通して、どのような背景のもとにどんな歌が生まれ、普及したかその推移を調べてみた。

グループ別アナリーゼ

いよいよ音楽的な面よりアナリーゼするわけだが、全曲をとり上げるわけには行かないので、下記の3つのグループに分け、各々代表的な歌を何曲か選んでその特色を研究してみたいと思う。

1. わらべうた——日本の昔からうたいつがれた歌。
2. 外国の民謡——明治初期に外国から取り入れた曲。
3. 日本人の作品 文部省唱歌等。

わらべうた

わらべうたの中より代表的な次の三曲を選んだ。

- A. かごめかごめ
- B. 通りゃんせ
- C. かくれんぼ

かごめかごめ

かごめかごめ

かごめかごめかこのなかの
とりはいついつでやる
よあけのはんにつるとかめと



と お り や ん せ





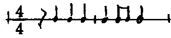
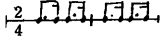
かくれんぼ

Handwritten musical score for the song "かくれんぼ" (Hide-and-Seek).

Staff 1: *f* Am Am Am Am
か く れ ん ほ す る も の よ っ と い て

Staff 2: Em Am V Em G
じゃ ん け ん ぼ ん よ あ い こ て しょ

Staff 3: *mf* G Am *mp* Em Am
もう いい かい まあ た た よ
もう いい かい まあ た た よ
もう いい かい まあ た た よ

	かごめかごめ	とおりゃんせ	かくれんぼ
メロディ	単純なくり返しでうたい易い	同 じ	同 じ
音 域			
拍子とリズム			
施 法	日本音階の俗楽施法	同 じ	同 じ
	ト長調の陽施法	ヘ調記譜の陰施法	ト長調の陽施法


以上三曲を考察する。

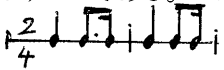
メロディ

・日本語の言葉のイントネーションとメロディとがぴったりあっているので自然でごくうたいやすい。

・音域がせまく、しかもその音域が幼児の発声可能な範囲なので、子供にとって非常にうたいやすい。「通リゃんせ」は多少音域が広いが「かごめ」「かくれんぼ」共DからHである。

リズム

単純な繰り返しのリズムが多い。殆んどが $\frac{2}{4}$ 拍子で  のリズムである。「かくれんぼ」は全曲を通して付点音符である。

 の付点のリズムは、外来のものと思われ易いがこれは、日本人が昔から持っていたリズムと思われる。民謡等にも、明るい調子の曲にはしばしば付点のリズムが用いられている。

ハーモニー

わらべうたにはハーモニーがなくもともと単旋律の歌である。歴史的にみても、ハーモニーが考察されホモニーの形になったのは、それ程古い昔ではない。ヨーロッパのグレゴリオ聖歌も正に単旋律の音楽である。しかしわらべうたも現代では、殆んど和声の伴奏がついている。編曲者の趣味によってかなり和声の選び方も異っているが、最もオーソドックスと思われる和声をつけてみた。すると、大変面白い事がわかった。

「かごめ」と「かくれんぼ」は音階的には、ト長調の陽旋法であるが、機能 and 声におけるイ短調である。しかも自然的短音階によるAm(1)とEm(V)を主とした和声極めて自然である。「通リゃんせ」は、ヘ長調の陰旋法であるが、和声的にはニ長調と解釈する事が出来る。

以上三曲共、短調を基調としている。日本民族の持っているメロディはどうやら短調思考らしい。昨今の演歌ブームも、さもありなんとうなずける次第である。

音階

いずれも日本音階で俗楽旋法である。「かごめ」「かくれんぼ」はト長調の陽旋法。「通りゃんせ」は、ヘ調の記譜による陰旋法。これ等は、グレゴリオ聖歌のドーリア旋法によくにている。勿論当時日本とヨーロッパの間に文化交流がなされたとは考えられないが、人類文化の共通点を見る事が出来て興味深い。

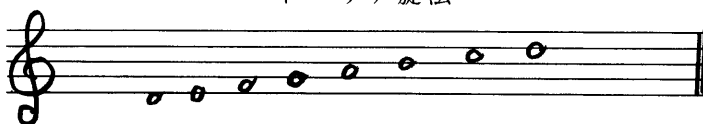
陽 旋 法



陰 旋 法



ドーリア旋法



外国の民謡

- A. 蝶々
- B. 庭の千草
- C. 霞か雲か
- D. 蛍の光

以上四曲を研究することにする。

比較しやすくするために次頁の表にまとめてみた。

蝶 々

野村秋足 作詞
 稲垣千穎
 スペイン 民謡

ちょう- ちょう ちょう- ちょう な の は に と ま れ
 な の は に あ い た ら さ く ら に と ま れ
 さ く ら の は な の さ か ゆ る み よ に
 と ま れ よ あ そ べ あ そ べ よ と ま れ

菊 (庭の千草)

里 見 義 作詞
 アイルランド 民謡

に わ の ち ぐ- さ も む- し- の ね- も か れ
 て さ び- し く な- ー に は- あ
 し ら ぎ- く- あ あ し ら- ぎ- く- ひ と
 り お く- れ て さ- き- に け- り

霞 か 雲 か

加部 巖夫 作詞
ドイツ民謡

か す み か く も か は た ゆ き か

と ば か り に お う そ の は な ざ か り

も も と り さ え も う た う な り

螢 の 光

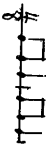
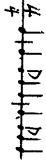


作 詞 者 不 詳
スコットランド民謡

ほ た る の ひ か り ま ど の ゆ き

ふ み よ む つ き ひ か さ ね つ

い つ し か と し も す ぎ の と を

あ け て ぞ け さ は わ か れ ゆ く

曲名		蝶々	蛍の光	霞か雲か	庭の千草
項目	国名	スペイン民謡	スコットランド民謡	ドイツ民謡	アイルランド民謡
原曲の題名	Lightly row	久しき者	春の訪れ	The Last Pose of Summer	
作詞	野村秋足・稲垣千穎	不詳	加藤 厳夫	里見 義	
作曲	不詳	不詳	不詳	不詳	
発表年	明治14年 小学唱歌集	明治14年 小学唱歌集	明治16年 小学唱歌集	明治17年 小学唱歌集	
メロディ	単純 明快	流麗	明快 簡潔	流麗	
リズム					
ハーモニー	I IV V	I IV V	I IV V	I IV V	
拍子	$\frac{4}{8}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{3}{4}$	
調	ハ長調	ト長調	ニ長調	ホ長調	
形式	二部形式(a a' b a')	二部形式(a b b' b)	三部形式(a b a)	二部形式(a a b a)	
曲の始まり方	強起	弱起	強起	弱起	
備考	この曲は外国の曲に日本の歌詞をつけた最初の例である。				
	別れの歌として、今尚世界的に通用する歌である唱歌の傑作の1つ				
	流麗な作詞によって唱歌の傑作の1つ				
	当時の小学生にはずいぶん難しかったので青年子女の間でうたわれた。非常に美しい曲である。1816年にこの曲をベートーベンが編曲している。				

左記の表からわかる様に、いずれの曲も、しっかりとした形式の上に作られ、和声においても、 $I\ IV\ V$ の基本的な和声進行によってなされている。特に、弱起の曲が多く現われている。音楽の三要素であるリズム、ハーモニー、メロディが一体となって、小曲といえどもバランスの良い素晴らしい音楽性を有している。これらの民謡をみても、外国の音楽の進歩、発展の度合は、日本をはるかに凌駕している。これ等の民謡が後の日本音楽に新しい息吹きを与えるものとなった。

日本人の作品

- a. 風 車
- b. 紀 元 節
- c. うさぎとかめ
- d. 春 が 来 た
- e. 汽 車

明治15年頃より日本人の音楽家達は、こぞって新しい曲を作曲した。この時代には、非常に多くの歌が生まれている。故に年代を追って特色のある曲を選び、全般的な傾向をさぐることになろう。

風 車

作詞・作曲者 不詳

か ざ ぐ る ま か ぜ の ま に

ま - に め ぐ る な り や - ま ず

め ぐ る も や ま ず め ぐ - る - も

紀元節

高崎正風 作詞
伊沢修二 作曲

Handwritten musical score for '紀元節' (Ji-genei-fest). The score is written on four staves (a, a', b, b') in 1/4 time. The key signature is one flat (B-flat). The lyrics are written below the staves. Chords are indicated by letters above or below the notes.

Lyrics:
く も に そ び ゆ る た か ち ほ の
た か ね お ろ し に く さ も き
な び き ふ し け ん お お み よ を
あ お ぐ き ょ う こ そ た の し け れ

うさぎとかめ

石原和三郎 作詞
納所弁次郎 作曲

Handwritten musical score for 'うさぎとかめ' (Usagi to Kame). The score is written on four staves (a, a', b, b') in 2/4 time. The key signature is two sharps (F# and C#). The lyrics are written below the staves. Chords are indicated by letters above or below the notes.

Lyrics:
も し も し か め よ か め さ ん よ
せ か い の う ち で お ま え ほ ど
あ ゆ み の の ろ い も の は な い
ど う し て そ ん な に の ろ い の か

汽 車

作 詞 者 不 詳
大和田愛羅 作曲

♩ = 120

い - ま は や ま な か い ま は は ま
い - ま は て つ き ょ う お た - る ぞ
お も う ま も な く ト ン ネ ル の
や - み を と お っ て ひ ろ - の は ら

Detailed description: This is a musical score for the song '汽車' (Train). It consists of four staves of music in G major, 2/4 time. The tempo is marked as ♩ = 120. The lyrics are written below the notes. The first staff starts with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The second and third staves continue the melody. The fourth staff ends with a double bar line. Chords are indicated by letters above the notes: G, C, D, D7, G, D, G, D7, G.


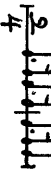
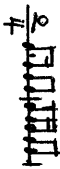
春 が 来 た

高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

♩ = 120

は る が き た は る が き た ど こ に き た
や ま に き た さ と に き た の に も き た

Detailed description: This is a musical score for the song '春が来た' (Spring has come). It consists of two staves of music in G major, 2/4 time. The tempo is marked as ♩ = 120. The lyrics are written below the notes. The first staff starts with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The second staff continues the melody. Chords are indicated by letters above the notes: C, F, C, G, C, F, C, G7, C.

曲目		風 車	紀 元 節	うさぎとかめ	春 が 来 た	汽 車
項目		風 車	紀 元 節	うさぎとかめ	春 が 来 た	汽 車
作 詞	不 詳	高崎 正風	石原和三郎	高野 辰之	不 詳	
作 曲	不 詳	伊沢 修二	納所弁次郎	岡野 貞一	大和田愛羅	
作られた年(明治)	16年	21年	34年	43年	45年	
発表された本	幼稚園唱歌集	幼年唱歌	幼年唱歌	尋常小学唱歌	尋常小学唱歌	
メロディ及び音階	二長調の陽旋法 わらべうたと同類	ハ長調であるが、第4音(ファ)と第7音(シ)が抜けている。四、七抜きと言う。	二長調 ただし、四、七抜き 言葉とメロディが良くマッチしている。	ハ長調 四、七抜き	ト長調 1音から7音まで全部使用されている。	
リ ス ム	特になし	 殆んど4分音符				
拍 子	$\frac{2}{4}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{2}{4}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{2}{4}$	
ハーモニー	メロディのみ	I 主要三和音及び副三和音 II V VI	I V Vの和声	I V Vの和声	I V Vの和声	
形 式	自由な形	二部形式(a a' b b')	二部形式(a a' b b')	一部形式(a b)	自由形式(a b c b)	
曲の始まり方	強 起	強 起	強 起	強 起	強 起	
備 考	日本古来からの音楽である「雅楽」のなかれをくんでいる。当時の女子最高学府の東京女子師範の附属幼稚園の園児のため作られた。	「小学校校日大祭日歌詞並築譜」として、文部省から告示された。2月11日の紀元節の歌	言文一致唱歌で、しゃべる通りに曲がつけられている。「語りもの」風である。	明治から大正にかけての唱歌の代表作。明るく大らかな歌で現在でも多くのの人にうたわれている。	当時の子供達は汽車を非常にめずらしく思い、興味深い乗物であった。	

以上五曲について考えてみよう。

- 旋法及び音階については、正に日本音楽から西洋の長音階への移行がはっきりよみとれる。「風車」ら「紀元節」に於ては、まだ日本的色彩が強いが「うさぎとかめ」と「春が来た」では、長音階に移行している。ただし第4音と第7音を抜いているところがいかにも東西折衷で面白い。日本人はこの四七抜き音階が非常に好きで、うたいやすいこともあって、現代の演歌調の曲にも多く用いられている。

「汽車」になるとオクターブの七音が全部用いられ完全に長音階となっている。

リズムの点では、各々の歌詞のこばに合わせて、適切しかも統一のあるリズムを用いている。わらべうたに比べると、一層変化に富み多様な情感を巧みに表現している。

拍子に於ては、二拍子及び4拍子が多く、まだまだ3拍子は少ない。3拍子のリズムは本来日本人には持ち合わせていない拍子で、西洋音楽が入って来てから序々に用いられるようになった。

ハーモニーでは、素晴らしい進歩をみせている。わらべうたに於ては、ハーモニーは存在しなかったのに対し、立派にⅠⅣⅤの和声進行を伴って作曲されている。前に上げた外国民謡の影響であろう。又当時の音楽家達の勉強ぶりがうかがえる。

形式についても同様、殆んどが二部形式、三部形式の形態をとっている。起承転結の音楽の基本をしっかりふまえて見事に作曲されている。これも西洋音楽の影響によるところである。

曲の始まり方では、外国民謡が殆んど弱起（アークタクト）の曲であるのに対し、強起の曲が多い。これは、日本語のイントネーションによる理由と日本人がアークタクトのリズムにまだ不慣れの為と思われる。

ま と め

- 明治時代の歌の推移の概要は、先に述べた通りだが、実際に各々の曲をア

ナリーゼしてみて、その時代の世相がそのまま音楽の内容（メロディ、リズム、ハーモニー、歌詞）に表われていること。

- 日本人の持っていた音楽、最も大衆に親しまれていた「わらべうた」や民謡は、独自の旋法により作られ、日本語と良く調和し、うたいやすい。立派な民族音楽であった。しかるに西洋音楽が入って来て以来、和洋折衷をとなえながら、実際には、急速にかたむいていったこと。

- 要するに今回調べた曲についていうと、

わらべうた＋外国民謡＝日本人作品（唱歌）といえること。

- この時代には、幾多のすぐれた作品が誕生している。これらの曲が、その後の日本音楽の源となっていること。

- 我々が、日頃口ずさむなつかしい歌の数々が殆んどこの時代に生まれている事は、実に感慨深い。当時の音楽家達が、いかに勉強し、音楽を大切にしてくる事か、うかがい知る事が出来る。

以 上

（かまだ ひろこ、幼児教育、音楽・ソルフェージュ）